# みずこう

発行所：麗澤瑞浪中学・高等学校麗澤会
〒509-6102 岐阜県瑞浪市稲津町萩原1661
Tel.0572-66-3111
発行人：西尾征司
編集人：望月正人
http://www.mz.reitakukai.jp

# 親子二代、麗澤瑞浪で学ぶ

**平成24年度入学式は、中学生64人、高校生174人を迎え、快晴でひきしまった空気の下、挙行されました。今年は冷え込みが長引き、学園の桜の開花も例年より遅れましたが、初々しい新入生たちは桜よりひと足早く新たな1年のスタートを切りました。その中でも、親子2代で本校に入学された二家族をご紹介します。**

## 麗澤の大使

森　徳行――18期

今春長女が、お陰様で麗澤瑞浪を卒業して、無事大学に進学することが出来ました。また、卒業式には、保護者としてだけでなく偶然にも卒業後30年の招待が重なり、同級生にも会うことが出来て、昔を思い出す楽しい日になりました。

在学当時も卒業式の会食は楽しみで、美味しいすき焼きがお腹一杯食べられることはもちろん、先輩後輩の思い出が、深まる一大行事でした。そして、今でも同じように盛大に盛り上がり先輩と後輩の絆の強さ、仲の良さが感じられる光景を見て、全寮制ではなくなってもやはり麗澤は、昔と変わらず家族のような繋がりが守られていることを、改めて感じることが出来ました。

そして今年、次女が麗澤瑞浪中学に入学することが出来ました。私が4年、妻が3年、長女が6年お世話になり、そして次女が後6年瑞浪で暮らすことになります。見ると学校は、年々新しくなり、定時制卒業の私としては定時制と高原校舎が姿を消したことがとても寂しい思いがします。また、水銀灯の光に照らされたプールも今は室内に変わり、昼休みにお菓子を買った売店もなくなり、瑞浪に来るごとに学校は姿を変えていきますが、寮での暮らしは昔と同じようです。

私たちは瑞浪の生活で、知らずしらずのうちに物事を自分中心ではなく相手を思いやる心や、物より人を大切にする考え方等の、家にいては学べない人間関係の基本を身につけたように思います。

当時の寮務の先生は「君たちは、この学園で身につけたことを持って、故郷で麗澤の名に恥じない生活をしてほしい。そして、麗澤の大使になってほしい」と言われました。私などはとても無理だと思い、当時は笑って聞き流しつつ、せめて恥にはならないようにしなければと思っておりました。

子供が2人入学し、周りからは「そんな遠い所へよく入れたなあ。子ども嫌がってないか」と言われますが、私たちが無理に入学を勧めた訳でもなく、本人が入りたいとの希望でした。また、入寮後、親が帰る時には寂しい顔をすると聞いていましたが、2人とも素っ気なく「バイバイ」と言いました。親として寂しい反面、私たち夫婦が瑞浪の生活を信頼しているので子供たちも安心して寮に入ったのだと思います。これからも親子共々に第二の故郷として寄せてもらいたいと思います。

## 変わらない麗澤瑞浪の根幹

大塚　裕――25期

我が家には3人の子供がおりますが、今年長男は麗澤瑞浪中学校から麗澤瑞浪高校に、次男は麗澤瑞浪中学校に入学させていただくことになりました。私も麗澤瑞浪高校25期の卒業生であり、親子続けて二代でお世話になることになったのです。当時、私が麗澤瑞浪へ入学したことを大変喜んでいた父が、3年前に他界しました。亡くなったのが2月15日で、孫である我が長男の麗澤瑞浪中学校への合格発表の直後でした。合格と聞き、病床でしたが大変喜んでおりました。

さて、私は麗澤瑞浪高校卒業後、関東に進学し、その後もほとんど東京で生活をしていた関係もあり、しばらく瑞浪から離れておりました。ところが子供の入学のほか、私の卒業20周年の同窓会や麗澤瑞浪の大同窓会等で、にわかに瑞浪のキャンパスを訪れる機会が増えました。約20年ぶりのキャンパスで感じたのは、変わらない麗澤瑞浪の姿でした。「こんにちは！」という、とても元気で明るい挨拶がありました。中学高校の校舎や寮など、多くの施設が卒業当時の面影を残していました。そして、大変お世話になった先生方も多数残っていらっしゃいました。寮を見学させていただくと、「自我没却神意実現之自治制」の額がかかっており、大同窓会や入学式では懐かしい校歌を歌いました。

ところが、しばらく学校に接する機会が増えると、次に感じたのは、昔と違う麗澤瑞浪の姿です。全寮制から一部通学生の導入。昔の寮は厳しい雰囲気もありましたが、今は大分変わったようです。麗明祭も、当時、運動会や文化祭を寮対抗で全力で戦っていた姿から比べると、ちょっと物足りない感じがしました。定時制はなくなり、高校男子寮は個室化されていました。

しかし、よく見ていくと、それらの違いがさまざまな社会の変化の中で、より良い麗澤瑞浪を作ろうとする学校の取り組みの一端であることがわかってきました。結果として、学力の向上とそれに伴う進学率の向上、より魅力的な麗澤瑞浪となり、モラロジー関係者だけでなく、多くの生徒が入学。部活動も盛んとなり、成果を挙げているようです。

そして、変わらない麗澤瑞浪として守り続けられている根幹が、モラロジーに基づく道徳教育でした。健全な心の上にしっかりとした学力をつける。部活動も盛んで、まさに知徳体一体教育が実現されています。

こんなにすばらしい環境に我が子が生活させていただいていることに感謝し、社会の役に立つ人となってくれるよう、親子ともども精進していきたいと思います。

# 伝統の重みを感じて

麗澤瑞浪中学高等学校校長　蟹井　克也

今年4月より井上貞廣前校長の後を受けて校長を拝命しました。麗澤会員の皆様、どうぞよろしくお願い致します。

一昨年に創立50周年を迎えた麗澤瑞浪は、麗澤会員をはじめ多くの関係者の皆様に支えられて今日に至っています。本校の卒業生も間もなく9千人になりますが、近年は大学進学や部活動などで顕著な成果も現れてきました。

世の中は長引く経済不況や少子高齢化などによって社会システムに様々な弊害も出てきていますし、家族や地域社会を結び付けていた人々の絆も失われつつあります。そんな日本社会にあって、本校はモラロジーに基づく確固たる教育理念のもとで、社会に貢献できる人材の育成を目標として教職員一丸となって教育活動を展開しています。

現在は、緑豊かでよく整備された広大なキャンパスに約700人の生徒が在籍しています。学校のある東濃地区での麗澤教育に対する評価も高まり、地元からも多くの生徒が通う学校になりましたので、登下校用のスクールバス路線も順次増やして対応をしているところです。

ご存知のように、本校の創立者廣池千英は、教育に大切な3本柱として、教育理念と教育環境とそこで働く教職員の大切さを説きました。私たちはこれらを常に念頭におきながら、生徒と教職員がともに「自立」「感謝」「思いやり」の心を育むことのできる学校を目指しています。

日本社会はいま、信じるにたる価値や理想を失い、若い人たちはグローバル社会に適応することを迫られて苦しんでいます。そんな荒涼とした厳しい社会にあっても、たくましく生き抜いていけるように、頼るべき価値観や道徳心を本校で身につけてほしいものです。

私自身は昭和35年生まれのみずこう16期生（麗澤42期生）として、この学校とともに歩んできました。古いプレハブの寮や平屋建て校舎の最後の経験者でもあるのですが、これまで皆さんが想いを寄せてくださった学校がいつまでも発展し続けられるよう、これからも絶え間ない改革を続けてまいります。会員の皆様には、母校発展のために今まで以上のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

## 屏風山

思い通りにならないことがあると、「どうして！」と、イライラしてしまう。マザー・テレサは、キレそうな時にキレないで済ませる方法を次のようにしていたという▼1984年来日された時のこと。マザーが行く所、何処も黒山の人だかりに加えて、「フラッシュの雨」だった。当時74歳のマザーは、肉体的にも精神的にもお疲れでしょうに、嫌な顔ひとつせずにニコニコと、本当に素敵な笑顔で対応していらっしゃった。全ての予定を終了して、マザーはこうおっしゃった。「私はフラッシュがひとつたかれるたびに、死にゆく魂が神様の御元に安らかに召されるように神様と約束をしてあるのです。生きている間、いいことがなくて、神や人、世間を呪っていた人たちの魂が『サンキュー』と言って穏やかに、この世と和解して死んでいくために、煩わしいけれど、疲れているけれど、笑顔でいるのです」と▼このことから、人には「自分の心の葛藤」と「自分と対話するゆとり」が必要だと感じた。日常の中には、「イライラするもの」「煩わしいもの」「面倒くさいもの」が、必ず存在する。そういう時にグッと我慢して、「これを我慢しますから、どうかあの人の病気が治りますように」と他人を思い、「仕方がないよね」と許す「ゆとり」を自分の中に作る▼キレそうになる自分を抑えるための、自分との小さな闘いが必要なのだ。逆に失敗した時は自己嫌悪に陥るのではなく「今度はもうちょっと我慢しようね」と自分と話してみる。マザーは、そういう自分との闘いと、ゆとりを常に持ち続けられた方なのだ。

## 堀一雄先生御逝去

昭和37年の開校当初から平成11年まで、みずこうで奉職されていた恩師の堀一雄先生が、1月29日に永眠されました。享年78歳でした。

## 岡村恒雄先生御逝去

昭和39年から平成17年までの42年間、みずこうで奉職されていた恩師の岡村恒雄先生が、6月12日に永眠されました。享年73歳でした。

謹んで先生方の御冥福をお祈りいたします。

# 母校近況

## 入学式

4月7日に平成24年度中学校第28回、高等学校第53回の入学式が行われ、中学生64人、高校生176人が新しく本校の仲間に加わりました。国歌、校歌斉唱の後、新入生の紹介があり、中学生の川畑公亮君と高校生の赤尾敦君が宣誓を行いました。

式後、食堂にて記念会食が行われました。会食では、早朝から在校生も準備を手伝った食堂特製お祝い弁当をいただきました。途中、担任紹介や恒例の麗澤クイズ、さらには生徒会が行う学校紹介で、場は盛り上がり、新入生同士や保護者、教職員等の間で交流を持つことが出来ました。

## キャンパス見学会

5月15日に、高校2年生を対象とした国立大学や私立大学を巡る「キャンパス見学会」が実施されました。最近は大学の資料も充実し、インターネットを利用して簡単に進路研究ができるようになりました。しかし、「百聞は一見に如ず」です。実際に目で見て体験することで、卒業後の進路をさらに具体的に考えることができました。

## 避難訓練と野外昼食会

5月16日の4時間目開始時に火災を想定した避難訓練をし、第3体育館前に全員が集まりました、その後引き続いて野外昼食が行われました。野外昼食会は、中高の新入生と新しく学園に来られた教職員を歓迎する意味で、毎年この時期に行われています。天候に恵まれ、美味しい料理に舌鼓を打ちながら、仲間とともに楽しいひと時を過ごしました。

# なつかしの恩師

## 学びの種を広げて

塩崎(山下)恵理先生

先日、卒業生が我が家を訪ねて来てくれ、最寄りの駅から「着いたので、今から伺います」という丁寧な電話がありました。容姿はすっかり綺麗な大人の女性に変わっていても、高校時代と変わらない礼儀や心づかいに、麗澤瑞浪の教育を誇りに感じました。

私も、そうした麗澤瑞浪の教育を受けた一人として、いつか母校に携わりたいと思っていました。そして念願が叶い、平成17年から3年間、養護教諭・チューターとしてお世話になりました。自分が卒業して10年後の母校は、私たちの時代からは見違えるほどすばらしい心の学びの場となっていました。また、在学中には分からなかった先生方のご苦労やご努力を知り、感謝の念が深まり、少しでも恩返しができればという気持ちが強くなりました。

しかし、実際の学校生活の中では、力不足なこともあって、父母の心となって生徒の心に寄り添えない場面も多くありました。そんな中、自分にできることは生徒の幸せを祈ることではないかと感じ、3年目の寮担当の時には、毎週、寮役員とご神壇にお参りに行き、共に一人ひとりの幸せを祈りました。こうした経験によって、自分も多くの方々に祈られている存在だということ、周囲の先生や生徒に支えられていることに気づかせていただきました。

現在、モラロジー研究所に奉職している主人と結婚し、一児の母となり、柏の学園の近くに住んでいます。我が家では、毎月1回「たんぽぽ会」というモラロジーの勉強会を開催しています。瑞浪の卒業生も多く参加してくれ、共に学ばせていただけることに喜びと感動をいただいています。麗澤教育の根幹であり、「いつ、どこにいても、誰もが学べる」モラロジーをこれからもしっかりと学び続けていきたいと思います。「たんぽぽ会」という名称には、学びの種が広がるようにという意味を込めています。全国で活躍する卒業生にも学びの種が届きますように。そして、第二のふるさとである大好きな母校の発展を心よりお祈りしています。

# 部活動報告

《高校剣道部》
○県高校総合体育大会
男子団体　優勝
女子団体　優勝
男子個人　優勝　佐藤　光
女子個人　優勝　藤田絢子
準優勝　乗田美紀
インターハイ出場決定

《弓道部》
○県高校総合体育大会
男子団体　優勝
インターハイ出場決定

《高校テニス部》
○県高校総合体育大会
男子団体　準優勝
女子団体　準優勝

《中学テニス部》
○東海地区中学団体戦県大会
男子団体　優勝

# キャンパスライフ

## ホウレンソウを心がけて

6年　B5寮寮長　生徒会長　松岡　佑佳

「生徒会ってやっぱり忙しい?大変?」と生徒会に入ったころよく友達に聞かれました。その時、決まって私は「忙しい。大変だよ」と言い、決して生徒会が「楽しい」なんて口が裂けても言えませんでした。

5年生の9月から始まった生徒会は緊張と失敗の連続でした。他のメンバーは私よりも学校を知っている一貫生。圧倒されてばかり。毎週月曜日に集まる生徒会は私にとって正直苦痛でした。

そんな中、生徒会の先生に「上に立つ人間として大事なのは、〝ホウレンソウ〟だよ。報告・連絡・相談。これができてなかったら会長が一人で頑張っても何も変わらん」と言われました。これを聞いてこんなに基本的なこともできていないのに、勝手に落ち込んでいる自分が馬鹿馬鹿しくなり、同時に心が少し軽くなりました。報・連・相ができていなければ生徒会メンバーはもちろん、生徒みんなも動いてくれるわけがない。と思い、それから私は何においても報・連・相を心がけて活動するようになりました。

また、今年度、寮役員をさせていただくことになり、寮役として特別なことをする前は、やはり報・連・相は大切だと気づきました。他にも常に周りをよく観察すること。物事を広い心で受け止めること。いつでも模範となる姿でいること。どれも生徒会長と寮役、2つの立場から学ぶことがとできました。

この2つの立場に立つ機会をくださった先生や仲間に感謝したいです。やりたいと思ってできるようなことではないことを改めてありがたいと思いました。

そして最後に「生徒会って大変?」と聞かれたら、私は「うん大変。でも楽しいし、やって良かったと思う」と今は自信を持って言えます。

# 23年度大学合格

昨年度の卒業生の国公立大学の合格はのべ41人(過年度生4人を含む)です。最後まであきらめずに努力を続けた結果です。その中でも選抜男子寮の生徒が奮闘し、多くの功績を残してくれました。その選抜男子寮は今年度より、一貫生も高入生も1つの寮にまとまり、より高い意識を持つようになりました。この選抜男子寮が麗澤瑞浪の勉強面をしっかりと支え周囲の生徒に良い影響を与えていくことを願います。

### 平成24年 国公立大学合格者一覧

| 大学 | 人数 | 大学 | 人数 |
|---|---|---|---|
| 北海道大学 | 1 | 愛知教育大学 | 2 |
| 筑波大学 | 1 | 富山大学 | 1 |
| 茨城大学 | 1 | 金沢大学 | 2 |
| 群馬大学 | 1 | 福井県立大学 | 1 |
| 埼玉大学 | 1 | 大阪大学 | 1 |
| 千葉大学 | 2 | 京都工芸繊維大学 | 1 |
| 東京農工大学 | 2 | 奈良女子大学 | 1 |
| 首都大学東京 | 1 | 和歌山大学 | 1 |
| 都留文科大学 | 2 | 兵庫県立大学 | 2 |
| 静岡大学 | 2 | 水産大学校 | 1 |
| 岐阜大学 | 1 | 鳴門教育大学 | 1 |
| 岐阜薬科大学 | 2 | 高知大学 | 1 |
| 名古屋大学 | 2 | 佐賀大学 | 1 |
| 名古屋市立大学 | 1 | 国公立　現　役 | 37人 |
| 名古屋工業大学 | 3 | 〃　過年度生 | 4人 |

### 有名私立大学合格一覧

| 大学 | 人数 | 大学 | 人数 |
|---|---|---|---|
| 中央大学 | 1 | 南山大学 | 9 |
| 明治大学 | 2 | 名城大学 | 15 |
| 法政大学 | 2 | 同志社大学 | 3 |
| 東京理科大学 | 5 | 立命館大学 | 12 |
| 東京農業大学 | 3 | 関西大学 | 4 |
| 明治学院大学 | 4 | 関西学院大学 | 9 |
| 麗澤大学 | 5 | 近畿大学 | 4 |

# 同窓会

## 同窓会に乾杯！

大阪万博が開催された昭和45年に卒業したみずこう7期生は、11月26日紅葉鮮やかな古都奈良の地で、恩師野々村先生・穂苅先生・八木先生・谷澤先生をお招きして、還暦同窓会を開催いたしました。同窓会に先立ち東日本大震災の犠牲者の御冥福を祈るとともに、亡き沼田主事をはじめ3人の恩師と10名の同級生の御冥福を祈りました。式典では、奈良代表幹事幸田君の挨拶に始まり、先生方の挨拶、近況報告と続き42年振りの再会もあり、旨いお酒と美味しい料理で昔話に花が咲き、近況から子供や孫の自慢話と大いに盛り上がりました。引き続き行われた二次会も全員が参加し、会話と笑い声が絶えることなく、深夜を過ぎるまで続きました。翌日は秋深し唐招提寺・薬師寺参拝と薬師寺小林録事（麗高卒）による法話と還暦祈願が行われ、全員が心豊かに幸せに満ち溢れたひと時を過ごすことが出来ました。

過去最大の65人が参加した還暦同窓会は、本当に有意義な2日間となり、遠方より、また忙しい中駆けつけてくれた皆さんと奈良の青木さんをはじめ、幹事の皆さんに感謝、感謝です。

次回は蒲郡の小笠原君が代表幹事で、今年東海地域で開催予定です。「寮生活たかが3年、されど3年」いつ以来かな…こんなに笑い話し騒いだ素晴らしい時を過ごせたのは…改めて同窓会に乾杯！　（小倉博・記）

## 13期全　名古屋に集う

4月7日（土）に名古屋にて13期の40人が集い「人生ってなぁに」というテーマで穂苅満雄先生による講演会と同窓会を開催しました。

講演会は卒業して36年、それぞれの人生を歩む仲間たちの心に忘れていた何かを気付かせていただけた素晴らしい講演でした。今年傘寿（80歳）を迎えられる穂苅先生は、今沖縄のモラロジー開発に力を注いでおられる中、全国を忙しく回っておられます。水泳や定期健診など、しっかり自己管理をされていて私たちの方がパワーをいただきました。

これを機会に穂苅先生の講演会を今後も定期的に開催していく予定です。　（藤原恵子・記）

## 卒業30周年記念同窓会

私たち18期定は、今年卒業30年で卒業式に参加させていただきました。前日には恵那で同窓会を開催し、小倉博先生、清水茂晴先生にご参加いただき、同級生5人の参加でした。参加出来なかった同級生にも電話をしたりして少人数ながら賑やかな楽しい同窓会になりました。卒業式では頼もしい後輩たちの姿に感動しました。美味しいすき焼きもいただき、自分の原点に戻ったような、楽しく有意義な二日間でした。（渡辺景子・記）

## 23期1組　伊東くん激励会

4月21日、福島県郡山市で23期1組と陸上部有志による合同の同窓会を行いました。この会では、昨年の東日本大震災で地震による被害に遭い、原発事故の放射能汚染に悩まされている、元陸上部員で福島県須賀川市在住の同期生伊東伸也君を激励しようと、全国から15人の仲間たちが参集しました。震度6強という激しい揺れを伴う震災の体験談、福島の方々の日常の様子から、福島や東北の方々の日々の苦悩を皆で痛感しました。被災した仲間の不屈の精神と家族の絆に胸を打たれつつ、東北の銘酒を味わい、瑞浪の仲間の結束を確かめ合った夜でした。　（長谷川善仁・記）

## 45期同窓会

3月11日に中日本生涯学習センターにて45期の同窓会を開催致しました。私たちがみずこうを卒業して、5年を迎えようとしている節目の年に、このような形で開催できたことを大変嬉しく思います。先生方にも来ていただき、56人で盛大に行うことができました。また、この日は東日本大震災から1年という日でした。そのこともあり、懇親会の前に全員で黙祷を捧げました。4月からは多くの人が社会人になります。それぞれのフィールドで活躍し、また次回の同窓会で元気に再会できればと思います。

先生方をはじめ、参加してくれた皆さん、本当にありがとうございました。（奥村祐司・記）

## 成人式に母校に集う

2012年1月8日（日）、成人式及び同窓会のため麗澤瑞浪中学校20期生が集まりました。参加者は8割弱で、全国各地から忙しい中、40人以上が参加してくれました。

8日昼、瑞浪市文化センターで行われた成人式に、それぞれスーツや袴、振袖などで集まり、再会を喜びあいました。式では、実行委員が作成した「恩師からのビデオ

# みずこうホープさん

37期

## 川上和之さん

私は、麗澤瑞浪中学・高校、麗澤大学と10年間麗澤でお世話になりました。その後、5年間の社会人経験を経て、父の経営する会社に2009年に入社しました。その傍ら、個人事業主として新規事業を開拓し、2010年に父の経営する会社を発展させる形で『（株）海老名鞄』を創業し、革鞄の企画・製造・インターネットでの販売に関わる業務全てを、父や従業員の協力のもと運営しています。麗澤教育の中で学ばせていただいたことは、感謝の気持ち、相手への思いやりの心です。特に瑞浪で経験した寮生活の6年間が、今の私の礎となっています。寮生活で得た一番の財産は、苦楽を共にしたかけがえのない仲間との出会いでした。家族のように、喜びや悲しみを自分のことのように思えるのは、瑞浪で生活した日々があったからだと感じています。親元から離れて気付けた両親へのありがたさだけでなく、寮生活の中で仲間同士支え合いながら生活することで、感謝の気持ちや思いやりの心を育ててもらいました。そ寮生活とそれを経験させていくれた両親にはとても感謝しています。麗澤で学んだ経験を生かし、海老名鞄ではお客様から信頼される会社を目指し、日々運営しています。お客様の声に耳を傾け、お客様からのお褒めの言葉に感謝し、お叱りの声をいただいた際は、自分ならどうして欲しいかを常に考え、お客様の立場にたった対応をさせていただいています。お陰様で徐々にお客様の好評と支持を受けています。これからも革鞄を通じて社会貢献が出来るよう、お客様に喜ばれ、信頼される会社になるべく、仕事に取り組んで行きたいと考えています。最後に、私を支えてくれた両親、妻、友人、恩師、関わる全ての方々に感謝し、瑞浪で得た経験を生かし、今後も努力を惜しまず、邁進していきたいと思います。

## 麗澤で育ててもらった心を

# 私の宝物　荻原 琴美（定36期生）

## みずなみ今昔

学校を卒業して早いもので、11年が過ぎました。私達は、定時制課程の最後の卒業生ということで、卒業時にタイムカプセルを埋めました。それを卒業して11年目の昨年に、皆で掘り起こしました。

皆が集まると必ず在学中の話になります。誰が恐かった、とか入学早々なんで坊主になったのか、寮内放送や夕礼、電話の取り方、寮掃除に、ドア開けなど話し出すとキリがありません。それもそのはず、365日の内360日寮生活で、仕事をし学校へ行って勉強、部活と今思うとハードな毎日でした。ですが、そんな生活が今に活かされてるのだと思います。ゴルフ場での仕事は、今の接客業にも活かされ、寮生活では、縦社会での生活の仕方を学べたと思います。その為社会に出てから戸惑うことも少なく、貴重な時を4年間過ごしてきたのだと今は、思います。

4年間で、社会生活も学べましたが、なんといっても一生ものの友達が出来たことが、何よりの宝だと思います。どれだけ会っていなくても、会った時には、皆学生の時に戻り、今まで出会った友達とは違い、変に気を使うこともなく言いたいことが言い合えて、時には悩み相談をしたり、励ましたり、励まされたり、友というより家族という言葉が似合っていると思うくらい強い絆で結ばれていると思います。

学生のころには気付けなかったことが、時間は掛かったけれども、今はいろいろなことに気付けて良かったと思います。麗澤瑞浪高等学校定時制課程を卒業出来たことを誇りに思います。高原生バンザイ。

レター」で先生方が登場し、お祝いの言葉とこれから社会人として生きていくために背中を押していただきました。集合写真を撮り、一時解散。そして中日本生涯学習センターで再集合し、同窓会を開催しました。

同窓会ではそれぞれの大学生活について話したり、高校の時を思い出して笑い合ったり、とても楽しい時間を過ごしました。後片付けでは、全員が協力してくれたためとても早く終わり、みずこうで学んだ日々が生きていると感じた瞬間でした。6年間一緒に生活してきた仲間がそれぞれの場所で頑張っていることに刺激を受け、これからもこの仲間と共に努力していこうと思える同窓会でした。

（高瀬加珠巳・記）

## 太鼓部OB・OG会

平成23年11月27日、麗澤瑞浪高校多目的ホールにて麗澤瑞浪太鼓部OB・OG会を行いました。当日はすでに就職されている方々から、昨年卒業したばかりの私たち、そして現役、顧問の先生方が集まりました。現役生の演奏でパワーをもらった後はOB・OGと現役が一緒に演奏しました。久々の太鼓演奏で現役についていけないところもありましたが、みんなで一曲一曲思い出の曲を心から楽しむことができました。来年はより多くの参加をお待ちしています。

（48期　五島佳奈・記）

## サッカー部OB会

昨年の12月4日にOB会を開催しました。久しぶりの開催となりましたが、OBが34人も参加をして、現役とあわせて60人を超える大変盛大な会となりました。冬空の晴天の下、現役時代の時と同様にボールを追いかけ、皆で楽しい時間を過ごすことができました。

今年から指定部として活動することになったサッカー部の益々の成果を期待して、次回の開催を楽しみに解散となりました。

（31期　望月正人・記）

## 谷垣先生20周年祝賀会

平成24年2月11日に、名古屋ガーデンパレスホテルにおいて剣道部OB会を開催しました。

今年は谷垣先生が赴任されてからちょうど20年ということで「谷垣先生20周年祝賀会」として開催したところ69人という多くのOBが参加してくれ、盛大なOB会となりました。

谷垣先生が赴任された当時、主将を務められていた廣嶋さんのスピーチや、20年間の歩みの上映などがあり、高校時代の熱い思い出が蘇る感動的な時間を過ごせました。

また、長きにわたって剣道部OB会長を務められた梅田さんが今年で勇退されました。梅田会長ありがとうございました。そして、北嶋新会長、よろしくお願いします。

最後は山本さんの勢いある万歳三唱で会を閉めくくりました。来年は「日本一祝賀会」でまた会いましょう。

（佐藤祐広・記）

## 第3回陸上部OB・OG会

今年で3回目となる「陸上部OB・OG会」を、土岐市内の鬼岩湯元館で開催しました。例年に比べ参加人数が少なめでしたが、初めての参加者もいて大いに盛り上がりました。

来年は実行委員会形式で開催し、参加者の増員を目指します。ぜひ参加してください！

（33期　安居輝人・記）

## 伝言板

### 8期全日制の皆さんへ

今年は還暦を迎え、第二の人生の節目になります。すばらしいスタートの年としましょう。先日5月19、20日伊勢志摩にて野々村先生ご夫妻をお迎えして、還暦記念同窓会を実施しました。（参加人数32人）皆さん卒業後40年以上が経ち、外見も変わり、一瞬だれ!?と思われる人もいましたが、ほとんどの方が話が進むうちに変わっていないことに安堵しました。

さて今回、案内状を出したところ返送されてきた数が多く、住所不明となっている人が多いことがわかりました。今一度、友人だった人や親交の深かった人へ電話や手紙などで近況を取ってみてください。（住所不明者は、市川香代（旧姓：岡崎）、及川恵子（旧姓：豊田）、大久保大志郎（旧名：信宏）、加藤隆久、小澤真、佐藤恵子、杉本浅次、月原二三、出口歳修（旧名：寿雄）、中島純子（旧姓：北村）、中屋辰男、橋本収示、肥田明和、広谷秀温、広永吉孝、細井幸信、松永幹男、安井清文）

事務局（市川幸洋
TEL 0596-36-2727、
090-5854-4883）
へご一報をお願いします。

（市川幸洋・記）

## おたより

**●これからは**

**桂川修治（3期）**

単身赴任中の住まいを恵那から山奥に変更しました。山野を駆け巡り、滝に打たれて修行をし、つちのこの捜索に励む予定です。

＝4月1日付

**●連絡待っています**

**井上安史（6期）**

コラム「屏風山」が継続されていること、大変懐かしく拝読しています。在校中は新聞部に在席しており、コラム担当をしていました。50周年記念同窓会前夜同期会に参加し、卒業後久し振りに顔を会わせた友人たちと楽しい時を過ごし、日々思い出しながら日常を楽しんでいます。後輩諸氏の、日頃のモラロジー活動の活躍を目にして、卒業後モラロジーから離れている自分には、恥ずかしい限りです。ただ今、病気療養中で、自宅でゴロゴロしております。同期諸君、暇な折りには連絡ください。

＝1月28日付

**●住所が変わりました**

**農見文敏（松井、7期）**

松井文敏から、旧姓農見文敏になりました。

＝2月13日付

**●外苑メンタルクリニック**

**川村浩子（旧姓＝北野、16期）**

昨年5月に東京の南青山で、夫が診療内科を開業したのを手伝っています。

今までは、中高校生の心の問題に向き合っていましたが、社会人や子育てをしているお母様方の心の問題に向き合うことが多くなってきました。家庭の問題が人の将来を大きく左右することを痛感しています。麗澤で学んだことが私の今の仕事にも反映されています。お役に立てそうなことがありましたらご連絡ください。

＝2月27日付

## みずこうゴルフコンペ開催のご案内

平成24年9月22日（土）瑞浪高原ゴルフ倶楽部にて、みずこうゴルフコンペを開催します。

秋分の日の開催になりますが、ゴルフ場の麗澤卒業生への特典により、土日祝日は、食事付き9800円でプレーが出来るようになりました。

詳細は開催日が近づきましたら、お知らせします。また今まで参加された方、各期の世話人の方には郵送にてご案内いたします。皆様お誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。お申し込みお問い合わせは下記まで。

麗澤瑞浪中学高等学校
TEL 0572-66-3111（代）
FAX 0572-66-3100
Email oimai@mz.reitaku-u.ac.jp
担当　今井收・大島悠士朗

## みずこうメールマガジンにご登録を

「みずこうメールマガジン」をみずこう麗澤会事務局から配信しています。

このメルマガはみずこう関連の会議などの連絡をはじめ、卒業生の活躍の紹介、母校在校生や恩師の活躍、母校近況の紹介、またその時々の必要に応じた会員様への連絡、そして、「心に残るひとこと」などを、不定期ではありますが、お届けしています。是非登録をしていただき、情報を共有しながら、お互いの意見交流の場にしてください。登録は次のアドレスへ、件名も入れずにカラで送信してください。 sp@mizukou.reitakukai.jp 登録フォームを案内します。

## 麗澤瑞浪の体験入学へ

今年も母校、麗澤瑞浪では体験入学を7月31日から8月2日にかけて行います。対象は小学5年、6年と中学3年です。学園生活の雰囲気を宿泊、学習指導のほか、数々の中で体験していただきます。夏休みの宿題や自由研究などの指導も行います。参加費は合宿制が1万円、通い制は4千円です。締め切りは7月20日。お申し込みは下記まで。

http://www.mz.reitaku.jp/
問い合わせは 0572-66-3111（体験入学係まで）